

令和 2 年度学校経営計画

令和 2 年度～令和 4 年度

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	近藤哲生	全日制	本校
----	----	-----	--------	------	------	-----	----

1 ミッション（地域社会における自校の使命）

地域に根ざした伝統校としての誇りと使命感を持ち、地域社会に貢献する人間性豊かな人材を育成する。

2 ビジョン（使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像）

- (1) 主体的な深い学びを通して、夢や目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる学校
- (2) 社会人としての基礎を培い、基礎的人間力を身に付けた生徒を育てる学校
- (3) 地域から信頼される開かれた学校

3 環境分析

区分	内部環境	外部環境
プラス要因	<p><b>強み (Strength)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○対話(教材, 仲間)を通して, 聴き合う関係づくりの構築及びジャンプ課題の設定による個々の学力が向上している。</li> <li>○少人数指導, 習熟度別指導, ティーム・ティーチングなど, 一人ひとりを大切にしたいきめ細かな指導を実践している。</li> <li>○全教員がチームとして, 主体的で深い学びのある授業づくりを推進している。</li> <li>○素直で誠実な生徒が多く, 時間や規則など, ルールを守らなければいけないと思っている。</li> <li>○全国レベルの競技力を誇るアーチェリー部, 中国地方で初の女子硬式野球部がある。</li> </ul>	<p><b>機会 (Opportunity)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本校活性化の実現に向けて, 廿日市市, 地域, 同窓会から, 本校教育活動全般にわたって積極的に支援がある。</li> <li>○地域と密に連携し, 企画・運営できる行事, ボランティア活動等の学びの場がある。</li> <li>○地域の伝統文化等を継承し発展させていこうとする人々が地元にいる。</li> <li>○「さえき学」, 地域活動等, 地域と連携した特色ある教育活動を展開している。</li> </ul>
	<p><b>弱み (Weakness)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力の個人差が大きく, 中学校までの基礎・基本が定着していない生徒がいる。</li> <li>○コミュニケーション力や自律性が十分に育っていない生徒がいる。</li> <li>○自己肯定感の低い生徒がいる。</li> <li>○指示待ちの生徒が多く, 率先してリーダーシップをとることができる生徒が少ない。</li> <li>○部活動の種類が少ない。</li> </ul>	<p><b>脅威 (Threats)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の子どもの数が減少し続けている。</li> <li>○地域外の高校へ憧れる中学生が多く, 地域外への高校進学率が高い。</li> <li>○地域, 中学校保護者等の固定化された過去の学校イメージが払拭しきれしていない。</li> <li>○少人数による生徒, 保護者の人間関係が固定化される。</li> </ul>
マイナス要因		

#### 4 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当 部等
		令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	
(1) 主体的な深い学びを通して、夢や目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる。						
① 深い学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題を設定した授業が推進され、生徒の意識・行動が変容している。	生徒授業評価アンケートにおける肯定的回答率	83%	85%	85%	85%	教務 教科
	自分から進んで学んでいると回答した生徒の割合	81%	85%	85%	85%	
② 常に学び合う協働的な教職員チームとして、自らの資質・能力の向上を図っている。	授業公開回数(回/人)	1.1回	1回	1.5回	2回	教科
	校内協議会参加人数(年間平均)	1.5人	2人	3人	4人	
③ 生徒一人ひとりの進路希望の実現に向けて、組織的に取り組む。	進路指導部による全生徒面談(回/年)	2回	2回	2回	2回	進路 指導
	進路検討会議(回/年)	2年1回 3年1回	2年1回 3年1回	2年1回 3年1回	2年1回 3年1回	
	希望進路達成率	100%	100%	100%	100%	学年
(2) 社会人としての基礎を培い、基礎的人間力を身に付けた生徒を育成する。						
① 自律心を育み、規範意識を考え実行できる能力・態度を育成する。	生徒指導上の遅刻0回の生徒の割合(年間)	59%	80%	80%	80%	生徒指導・ 保健
	保護者を伴う特別な指導人数(年間)	9人	5人	4人	3人	
② 生徒会活動、部活動、地域貢献活動等を活性化し、自己肯定感を高め、地域を愛する生徒を育てる。	主体的に学校行事等に参加したと考える生徒の割合	84%	85%	85%	85%	生徒指導・ 保健
	自己に対する肯定的評価をしている生徒の割合	82%	80%	80%	80%	
③ 異文化交流等を通じて、グローバルマインドを向上させる。	異文化交流体験等の実施回数	1回	1回	1回	1回	進路 指導
④ 特別支援教育の視点をもった教育活動を推進する。	特別支援教育に係る研修会開催回数(年間)	3回	3回	3回	3回	生徒 指導・ 保健
(3) 地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。						
① 中学校との連携や魅力的な広報活動を通して、生徒の募集に努める。	オープンスクールの参加者数	102人	80人以上	80人以上	80人以上	総務
	オープンスクール参加者アンケートによる満足度の割合	100%	90%以上	90%以上	90%以上	
② 学校教育活動について、タイムリーな情報発信を行い、計画的かつ丁寧な広報に努める。	ウェブサイトの月当たり平均更新回数	9.25回	7回以上	8回以上	10回以上	
③ 働き方改革を組織的・継続的に推進する。	月あたり超過60時間以上超過45時間以上	-	1人以下 3人以下	1人以下 3人以下	1人以下 3人以下	全分掌

## 5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
(1) 主体的な深い学びを通して、夢や目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる。			
① 深い学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題を設定した授業が推進され、生徒の意識・行動が変容している。	○オーセンティックな学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題の設定を取り入れた授業づくりを推進する。 ○生徒による授業評価アンケートを実施する。	○すべての教科・科目において、オーセンティックな学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題を設定した深い学びの授業を実践する。	教務
② 常に学び合う協働的な教職員チームとして、自らの資質・能力の向上を図っている。	○教員一人1回以上(年間)の授業公開・協議会を実施する。 ○深い学びの推進に係る校内研修会を実施する。	○教職員チームとして組織的、協働的に取り組み、協議会の内容を授業づくりに反映させ、学びに向かう生徒を増加させる。	教科
③ 生徒一人ひとりの進路希望の実現に向けて、組織的に取り組む。	○計画的、組織的に個人面談を行う。 ○各学年の進路検討会議を行う。	○計画的、組織的な個人面談、進路検討会議等を通して、進路実現に向けて、自ら挑戦しようとする生徒を増加させる。	進路指導 学年
(2) 社会人としての基礎を培い、基礎的人間力を身に付けた生徒を育成する。			
① 自律心を育み、規範意識を考え実行できる能力・態度を育成する。	○挨拶、言葉遣い、服装、時間について日常的に全教職員が声かけを行う。 ○組織的な指導体制づくりのため意思疎通を行う。	○生徒自らが自律心や規範意識を考えて行動する行事等の活動を増やす。 ○組織的な指導体制を構築する。	生徒指導 ・保健
② 生徒会活動、部活動、地域貢献活動等を活性化し、自己肯定感を高め、地域を愛する生徒を育てる。	○生徒会活動、部活動、地域貢献活動を積極的に行い、地域を知り、地域の課題を発見し、課題解決に向けて探究的に取り組む生徒を育成する。	○部活動に多くの生徒が参加し、自律的な活動を行う生徒を増やす。 ○生徒が中心となって学校行事や地域活動を計画し、実施できる機会を設定する。	生徒指導 ・保健 学年
③ 異文化交流等を通じてグローバルマインドを向上させる。	○姉妹校交流を充実する。 ○異文化交流イベント等を積極的に紹介する。	○姉妹校交流や異文化交流を通して、国際的視野の広がりを目指す。	進路指導
④ 特別支援教育の視点をもった教育活動を推進する。	○気になる生徒や欠席の続く生徒について教員間の連携を密にし、生徒の心身両面にわたる支援を充実させる。	○生徒が意欲を持ち、安心して学校生活を送ることができるよう、組織的に取り組める体制を整備し、状況に応じた支援を充実させる。	生徒指導 ・保健
(3) 地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。			
① 中学校との連携や魅力的な広報活動を通して、生徒の募集に努める。	○生徒・保護者の期待に応える学校説明を行う。 ○オープンスクールを充実させ、授業体験を組み込む。	○教職員が自校の目指す姿を共通で認識し、平素から積極的な学校のPRを行う。	総務
② 学校教育活動について、タイムリーな情報発信を行い、計画的かつ丁寧な広報に努める。	○毎週HP更新を行い、タイムリーな情報発信を行う。 ○本校の魅力PRの工夫を行う。	○ウェブサイトの記事を生徒中心とし、行事の紹介に終始することなく、自校のビジョン、魅力を語りかけていく。	
③ 働きやすい職場環境づくりを目指し、組織的・継続的に業務改善を推進する。	○積極的に業務の改善に取り組む。 ○協働する教職員チームとして業務を遂行する。	○組織的・継続的な業務改善によって、学校が活性化し、教育の質が向上している。	

